

令和4年度 病害虫発生予察情報

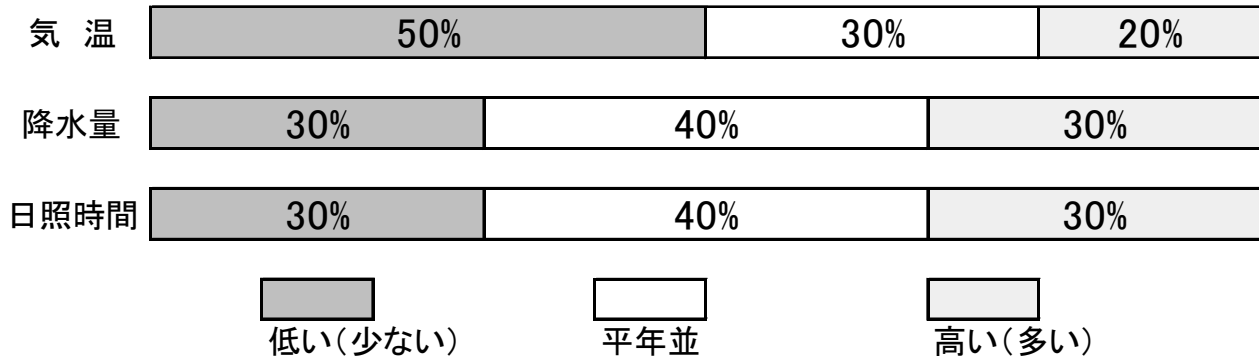
発生予報第3号（6月）

令和4年6月6日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	多い
		ニカメイチュウ	平年並
		イネミズゾウムシ	平年並
		セジロウンカ	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並
		黒星病	平年並～やや多い
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	平年並
		ハダニ類	平年並
		カキ	カキクダアザミウマ

中国地方1か月予報(6月4日～7月3日・広島地方气象台6月2日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 多い

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第6半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は26.1%（平年5.9%）、捕獲数は0.91頭/50株（平年0.11頭）と発生量は平年に比べて多い。
- ③ 越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は定点調査では0%（平年0.6%）と低いものの、一部の縞葉枯病発生地域では保毒虫率が高い。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 やや遅い
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第6半旬まで認められない。
- ② フェロモントラップへの5月第6半旬までの誘殺数は52頭（平年96.4頭）と平年並みである。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯への飛来は7頭（平年12.8頭）と平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第2半旬と平年並みである。5月第6半旬までの誘殺数は20頭（平年33.9頭）と平年並みである。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は30.4%（平年27.0%）、捕獲数は1.93頭/50株（平年0.62頭）と発生量は平年並みである。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は90頭（平年66.1頭）と今年の越冬量は平年に比べてやや多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
飛来時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第6半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査で、発生は認められていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.9%（平年1.1%）と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.2%（平年0.1%）と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップでの初飛来日は4月5日と平年に比べてやや早い。
- ② フェロモントラップでのナシヒメシンクイの5月第6半旬までの誘殺数は86頭（平年35.4頭）とやや多い。

- ③前年のナシヒメシクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで越冬量は平年並みと考えられる。
 ④向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
 発生時期 やや早い
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月5日と平年に比べてやや早い。
 ②フェロモントラップでのハマキムシ類の5月第6半旬までの誘殺数は平年並である。
 ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

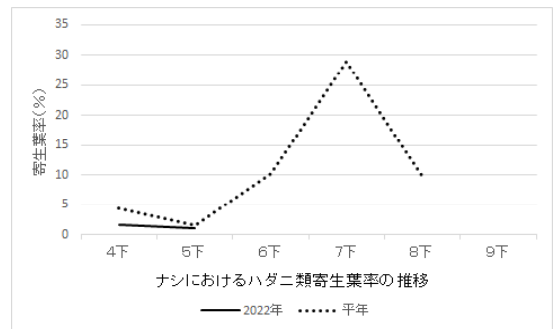
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は少ない。
 ②5月下旬の巡回調査(安来市)では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.0%(平年1.5%)と平年並みである。
 ③向こう1か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
 発生時期 平年並
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
 ②5月下旬の巡回調査では本種による巻葉被害は認められなかった。
 ③向こう1か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp